

未練なき魂

八坂明日

大海を彷徨う 帆船が一つ

荒波に疲れ やつれた男一人

北極星の羅針盤すら からから狂い

海路が視えず 運命も見えず

(他に船員が在らぬのは よかった)

白波と青波が交差する様を眺めて

孤独であることに安堵する

このまま集合意識の中心で

朽ちて幽かぐりの船となるも また良し

(他に残す物が無いのは よかった)

風なき 音なき 光なき

耳にすべり落ちるのは

海難に誘わんとする歌声のみ

ヒメロパ

テルクシエペイア

リゲイアー

パルテノペー

アグラオペーメー

ペイシノエー

モルペー

鳥の姿か 魚の姿か
その魅惑に誘われて

(私もまた 哀れな船人となるのだろう)

耳を栓する蠟すら持たない
マストに縛ってくれるものもない

さあ 沈みゆくぞ

彼方の水底の澱となるぞ

(心残りなど持ちあわせぬ 自分故に)

海に身を投じた男を

妖女達は柔らかく抱き留め
連れ去った

昏き 昏き 骸の郷へ

黙する御魂へ

正しく生きようとしたばかりに

正しい心を持つとうとしたばかりに

鎚で打ちのめされる

剥奪され 貶められ

失意の墓に沈んでいく

生ある間に報われず

魂は睡蓮と浮く

澱んだ池の上で

ふか ぷか と

掬われるなら報われる

しかし枯れて腐ったものは

どれほどあるのだ

水底の塵芥となった英雄は

見向きもされない

正しく生きたばかりに

正しい心を持ったばかりに

朽ちていくのだ

何時の世も

何処の国も

また 沈む

もしも悪があるならば

孤独になる位ならと

傍らの人を生贄に

「そしてあなたは孤独と成った」

悪魔になる位ならと

隣りの人を生贄に

「そしてあなたは悪魔に成った」

それを認めてなるものかと

英雄すらも無残に捧げる

「あなたは何に成りたいの？」

そこに立つのは「何」だろう